

# 広島発の車いすダンスを通して、バリアフリーな社会の 創造・共生社会の実現をめざした仲井サカエ創設者

ー広島車いすダンスクラブの歩みよりー

畠山 京子

広島都市学園大学 子ども教育学部

## 要 旨

広島車いすダンスクラブ（以下、クラブ）創設者の仲井サカエ先生（1941-2018、以下仲井）が、逝去され今年で3回忌を迎える。仲井は広島市心身障害者福祉センター（以下、センター）に看護師として勤務し、センターの同好会として1997（平成9）年4月に「車いすダンス研究会（現広島車いすダンスクラブ）」を創設した。クラブは競技出場をめざさず、年間40回に及ぶ福祉施設・学校等の公演、更に米・加・中国等へ11回の国際親善と平和の使者の役割を果たし、広島発の車いすダンスクラブとして、20余年に亘り活動し、我国最大級の車いすダンスクラブ（会員30人）へと発展を遂げている。車いすダンスを通して「バリアフリーな社会の創造・共生社会の実現」めざし、一人ひとりの生きがい、社会参加の促進を図っている。

キーワード：広島発の車いすダンス、広島車いすダンスクラブ、バリアフリーな社会の創造・共生社会の実現

## はじめに

クラブ創設者の仲井が逝去されて、本年度で3回忌を迎える。

筆者は2001（平成13）年4月から4年間、クラブが活動する広島市心身障害者福祉センター（以下、センター）に第五代所長として勤務し、1991（平成3）年よりセンター勤務の看護師の仲井との出会いを頂いた。

筆者は広島市役所を30余年勤務後、大学勤務に転じて以降、クラブの国内外への公演等に同行し、ボランティアとして活動を共にし、学生と共に、広島フラワーフェスティバルのパレード等にも参加し、仲井とクラブの活動に約20年間に共にさせて頂いた。

仲井は、「車いすダンスを通して、バリアフリーの社会の創造」を掲げ、数百曲に及ぶダンスの創作、振付け、更にクラブ運営のための補助金申請、寄付募集、更にクラブの方々の送迎等々、クラブの運営・発展に心血を注ぎ、多大な貢献を果たした。クラブの活動についてセンターのホームページの「利用者の広場」へアップロードし、毎月クラブ会員には



仲井 サカエ先生

「ほのぼの通信」を発行した。「会の全体の歩みについて書くことは日々、忙しくてできないので、執筆して欲しい」と、生前、仲井から筆者に依頼を頂いていた。広島車いすダンスくらぶの歴史と、仲井の歩み・活動についてその業績を辿る。

## 1 看護師として歩む

出生は尾道市で、福山市の県立松永高校を卒業後、広島赤十字高等看護学院に入学した。「在学時から飛び抜けて優秀でした。学生会長で広島大学寮が近くにあり、当時ブームのダンス交流会を企画し、卓越したリーダーシップを発揮されていましたね」（山本カヨ子氏（元日赤看護学生）：元広島都市学園大学看護学部教授、学長補佐）と、当時を語る。卒業後は広島赤十字病院に勤務（8年9ヵ月）し、就職3年目に船便で友人と4か月間、渡米して全米各地を旅行し、現地の大病院13か所の病院見学をした。仲井は会話、英文とともに自在に駆使し、高い英語力を有し、米国の医療状況や更に看護学生の時にダンスが当時ブームでダンスに触れており、渡米でダンスが日常生活の中にあることも学んだ。

結婚後、子育てに数年間専念し、看護学校、赤ちゃん電話相談、専門学校講師、精神科病院等に13年間勤務。1991（平成3）年からセンターに看護師として勤務。16年間勤務して2007（平成19）年3月に定年退職。退職後、同居の実母の介護等とくらぶの活動に専念した。広島赤十字高等看護学院卒業後、結婚、子育て後、看護師として歩んでいる。

## 2 センターで「人生はこれでお終いということはない！」、実兄の急逝で「やりたいと思っていることを実行！」

センターは1983（昭和58）年11月1日に大阪市、名古屋市について全国3番目のA型身体障害者福祉センターとして開館。センターはスポーツ・レクリエーションの指導、生活や医療、訓練等に関する各種相談、機能回復等の訓練、文化・スポーツ等の講習会や体験学習の開催、同好会等への支援等を通じ、障害者の健康増進、教養の向上等のための機会を提供し、余暇活動の充実や社会参加の促進を図る事を目的とし、「センター開設20周年記念誌」（2004（平成16）年3月31日発行）によれば2002（平成14）年度年間利用者は11万2千人、1日約400人である。

仲井はセンターに看護師として着任して、センター利用者の保健相談等を担当した。「保健室便り」を発行し、更に栄養バランス食教室等を開催し、保健業務の充実に取り組んだ。「センターは発見の連続」「人生はこれでお終いということはない」と積極的に業務に取り組み、更に広島市内の小説等の文芸グループに属して「センター勤務での出会い、刺激をうけ、書かずにはおられない気持」を抱いて小説等を執筆した。

広島市文化振興事業団主催の「市民文芸」の公募（1992（平成4）年）に初めて書いたノンフィクション「ほのぼの館 二人五脚物語」（50枚）は、センターでの脊髄損傷の青年との出会いと交流を執筆して第2席を受賞した。翌年から毎年、小説部門で応募し、3席2回、1席1回、詩部門では佳作入賞し、入選作は「市民文芸」に収録されている。

1995（平成7）年に実兄が交通事故で急逝され、「文章が書けなくなった」「人間はいつ人生を終えるかわからない。やりたいと思っていることは実行するしかない」と、実兄の急逝された際の胸中、センターで車いすダンスを始めた契機について語った言葉を筆者は今も思いおこす。

### 3 「センターで脊髄損傷の青年との出会いで「車いすダンス研究会」 （1997（平成9）年4月）立上げ

仲井は実家の大黒柱の実兄が急逝され、高齢の実母を引き取り介護とセンターの看護師業務に携わっていた。センターでの脊髄損傷の青年との出会いにより、「車いす使っている人たちと一緒にダンスできたらどんなに楽しいだろう」との思いから、1991（平成3）年秋に出張先の神奈川県で車いすダンスの存在を知り、そのダンスを学ぶため、勤務等の合間を縫って幾度か上京した。

車いすダンスを広島で始める決意し、1997（平成9）年4月に広島県初のセンター内の同好会として、「車いすダンス研究会」（現広島車いすダンスくらぶ）を1997（平成9）年4月に立ち上げたが、一緒に始めた社交ダンスのインストラクターが2年後に事故で亡くなり、仲井一人で会を進めていく状況となった。立ち上げ当時、センターを利用する人で車いす利用者が一人もいないという時代で、「車いすを使っている人を探し）車いすダンスに呼びかけるのに苦労した」と仲井は当時を語っている。又、当時は「車いすダンスを踊るための車いすも無く、補助金申請をして新車2台を頂いた」という現状であった。

そのような困難な中、「車いすダンス研究会」を発足した1997（平成9）年12月にはセンターの文化祭に出演し、以降毎年出演を継続している。更に1999（平成11）年10月の第11回生涯学習フェスティバルまなびピア広島'99にも出演を果たした。

仲井達が立上げた広島発の車いすダンスくらぶは現在、発足して24年の歳月を重ね、会員は30人（障がいがある人は17人）前後で、我が国最大級の車いすダンスくらぶとして発展を遂げている。

### 4 車いすダンスを通して「バリアフリーな社会の創造・共生社会の実現」をめざす～広島車いすダンスくらぶ」へ

仲井は、2002（平成14）年頃より、重度の障がい自分で車いすをこぐことができない人が相次ぎ入会し、仲井が上京し、東京の車いすダンス講習会で学んだ車いすダンス種目・社交ダンスのみでは対応が困難となった。仲井はどの団体にも属さず、広島独自の車いすダンスとして名称も「広島車いすダンスくらぶ」と名称変更し、「バリアフリーな社会の創造・共生社会の実現」の理念を掲げ、広島発の独自の車いすダンスを目指した。

仲井はセンターホームページ内の「利用者の広場」、クラブの公式ホームページに「車いすダンスとは」で車いすダンスの内容は以下のとおりである。

車いすダンスの定義、2車いすダンスの社会的役割、3車いすダンスの歴史、4レッス

ンの順序, 5 車いすダンスを長く続けるコツ, 6 ダンス用車いす, 7 安全に走行するには, 8 クッション (必携), 9 ダンスのテンポ, 10 車いすダンスのリハビリ効果, 11 車いすダンス時の注意点の11項目である。

仲井は車いすダンスの目的, 社会的役割を明文化し, 更に車いすダンスは, 「福祉の心がないと続かない」ことがわかってきたと述べている。レッスン, クラブの活動の中で, 障がいがある人, 障がいが無い人が共に, 相手を思いやる心とダンスを愛する心が強い人だけが残っていったと述べている。

### (1) 車いすダンスとは

何らかの理由により, 車いすに乗って踊る方が都合がよい人と, 立って踊る人がペアを組んで踊るダンス。しかし, 車いす同士で踊るダンスも含まれる (デュオという)。

### (2) 車いすダンスの社会的役割

- ・年齢, 国籍, 男女, 障がいの有無を問わず, どなたでも楽しむことができ親善交流の場に有益。
- ・少子高齢化の時代に, 私たちは何らかの福祉的な役割を求められるようになる。車いすダンスを通して, 車いすの取り扱い方や車いすの方々の気持ちや不自由さを学び, 多くの人々に勇気と感動, 活力を与えることができる。
- ・車いすダンスは助け合ってこそ成り立つダンスである。優しい街づくりやバリアフリーな社会の創造を前進させることにつながりノーマライゼーションの実践となる。
- ・障がいがある人の社会参加を可能にし, 生きがいつくりや積極性の向上に役立つ。

### (3) 車いすダンスを長く続けるコツ

- ・必ずパートナーに挨拶し, 楽しい会話を心がける。
- ・車いすの人は, スタンディングパートナーが常に障がいに関する理解が十分だとは限ないことを認識し, 援助が必要な場合は, 言葉できちんと伝える。
- ・スタンディングパートナーは, ダンスばかりでなく, 車いすの準備や乗り降りの援助更衣やトイレの介助, 会場の掃除など, 必要に応じて積極的に介助する。
- ・スタンディングパートナーは, 障がいは一人ひとり異なることを理解し, 相手のリスクポイントを学んでおく。
- ・スタンディングパートナーは, 車いすの人が生き生きと動いているようにリードを心がける。
- ・常に幅広い社会参加を目指す積極性を持ち, 互いに助け合っていくことを心がける。

#### (4) 仲井が提唱する「広島車いすダンスくらぶ」について

##### ① 競技出場はめざさず、障がい別、軽重を問わないダンス

車いすダンスは障がいがある人となない人が、助け合って成り立つダンスであり、障がいがある人が優位となる競技への出場は目指さず、ダンスを通しておもしろいや社会性の向上を図り、障がいがある人自身のリハビリともなり、更に社会参加により、幅広い交流や地域文化の向上、ひいてはバリアフリーな社会・共生社会の実現を目指している。仲井は「相手を思いやる福祉のこころがないと車いすダンスは続かない」と強調している。レッスンの場所はセンターで、週3回実施。くらぶはセンターの同好会として活動した。

当初、車いすダンス連盟に加入していたが、一律、月千円の会費が必要なため、会員の金銭面の負担が大きいため、3年後に脱退。仲井は「会員に極力、経済的な負担をかけないこととし、作業所にも行けない重度の人や学生は無料とし、その他の人は月500円を会費とした」と会員の経済的負担に配慮し、補助金申請、寄付金募集に努めた。くらぶでの交流、舞台出演が大きな自信となり、在宅から就労へとつながった方もいる。

##### ② ダンス種目は民謡、クラシック、ロック等の多様なものを取り入れ、誰もが楽しめるダンスをめざす

ダンス種目は、競技大会で踊る社交ダンスだけでなく、バレエ、フラメンコ、民謡、映画音楽、歌謡曲等、踊る人も観る人も共に楽しめるように、仲井は独自の振付を考えてダンス創作をし、曲を編集して構成し、夢と希望に満ちた公演を届けようと「車いすダンス」をライフワークとして、参加者からは月額500円の会費のみで活動を重ねた。

##### ③ 地域を主軸としての講演活動の推進

センターの文化祭が初舞台で、毎年5月のゴールデンウィーク中に広島市平和大通り及び平和記念公園をメイン会場に160万人を越える来場者で賑わうフラワーフェスティバルのパレード、ステージ、更に広島に夏を告げる浴衣祭り「とうかさん」等に出演している。福祉施設や学校訪問のほか、広島県内の住民の方々を対象とした車いす無料講習会を100回以上開催して車いすダンスを広めている。くらぶとして、年間40回程度の国内外の活動を実施している。

##### ④ 広島県民文化センターでの定期公演、各種全国規模の「国民文化祭」等への出演

「国民文化祭」「ねんりんピック」「全国レクリエーション大会in広島」等の広島市におけるビックイベントに出演を果たした。2006(平成18)年に県民文化センター(ホール530席)で『10周年記念講演』を開催し、以降毎年、継続してくらぶとして『魂の

パフォーマンス』を満席で立見席もでるほどで開催し、2016（平成28）年8月27日にはくらぶの20周年記念『魂のパフォーマンス』広島公演（於：広島県民文化センター）を行い、10月21日には、20周年記念『魂のパフォーマンス』東京公演（於：きゅりあん品川区立総合区民会館大ホール1074席）を開催を行うことができた。

東京公演は①日本障害者リハビリテーション協会、②東京広島県人会、③品川区役所、④品川区社会福祉協議会、⑤東京新聞、⑥広島県、⑦広島市の7団体から後援を得て、「財源」と「入場者」の確保に取り組み、20周年記念として念願の「東京公演」をやり遂げた。

「車いすのリズミカルな動き、くらぶの皆様の曲に合わせた表現の豊かさに感動しました」「エネルギーを頂きました」「プログラム構成も工夫され、皆さんの心温まる演技に感動しっぱなしでした」等の声や感想を頂き、東京公演を成功裡に終えた。

表1 広島車いすダンスくらぶの国内における主な活動歴

1997（平成9）年12月	広島市心身障害者福祉センター文化祭出演。（以降毎年出演）
1999（平成11）年10月	第11回生涯学習フェスティバル「まなびピア広島'99」出演。
2000（平成12）年5月	広島フラワーフェスティバルのパレード・ステージ出演
2000（平成12）年11月	「第15回国民文化祭ひろしま2000」出演
2001（平成13）年4月	地下街「シャレオ」オープン記念に出演
2001（平成13）年10月	「2001ねりんピック広島」出演
2002（平成14）年5月	福山ばらまつりパレードに出演
2002（平成14）年10月	「スポレク広島2002」出演
2003（平成15）年9月	「全国レクリエーション大会in広島」開会式に出演
2004（平成16）年11月	県民文化祭出演
2005（平成17）年9月	「NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク第11回全国の集いin広島」出演
2006（平成18）年10月	島根県松江市玉湯公民館・玉湯中学校文化祭出演
2006（平成18）年12月	全国障害者芸術・文化祭沖縄大会出演
2007（平成19）年3月	島根県浜田市教員研修会にて講演&公演（500名）
2007（平成19）年12月	全国障害者芸術・文化祭長崎大会出演
2008（平成20）年3月	広島刑務所慰問
2009（平成21）年12月	日韓親善忘年交流会：ダンスデモ演技披露（350人）
2012（平成24）年4月	大阪府社会福祉協議会主催「バリアフリー2012大阪」出演
2013（平成25）年9月	宮城県石巻市震災復興支援訪問
2015（平成27）年9月	広島市立特別支援学校訪問
2016（平成28）年10月	広島車いすダンスくらぶ20周年記念「魂のパフォーマンス」 東京公演：きゅりあん品川区立総合区民会館大ホール
2017（平成29）年10月	宝塚市 はんしん自立の家「デイサービス宝塚ちどり」訪問
2019（平成31）年3月	西日本豪雨災害被災地 坂町平成ヶ浜応急仮設団地訪問

※1 くらぶの定期公演（広島県民文化ホール大ホールにて「魂のパフォーマンス」連続14回開催）

※2 地域のイベント参加（ひろしまフラワーフェスティバルのパレード、舞台。福山ばら祭り連続参加）



畠山京子

広島発の車いすダンスを通して、バリアフリーな社会の創造・共生社会の実現をめざした仲井サカエ創設者



魂のパフォーマンス2018

(於：広島県民文化センター)



広島での20周年記念公演 (2016.8.27),

続いて20周年記念東京公演

(2016.10.21 : 1074席)



41Fひろしまフラワーフェスティバルパレード

(2017.5.3)



無料車いすダンス講習会 (2019.1.19)

(広島市心身障害者福祉センター)

## ⑤ 車いすダンスを通しての国際交流の推進

2003 (平成15) 年, 広島ケニア友好協会設立に参加し, 夏にケニアからの大学生との交流会を開催したことをきっかけに「障がいがある立場は, 最も平和を必要とし, 求めていくという立場である」「障がいがある人々にとって広い世界に触れること,

海外に旅する機会を得ることはなかなか困難であるのでクラブで企画」と仲井は語っている。米国のロサンゼルス市を18名で訪問したのを嚆矢としてカナダ、中国、オーストラリア等の6カ国の国・地域を11回、施設・学校訪問等を行い、相互交流と車いすダンスの公演を行った。

筆者が同行した7回の中国等のいずれの訪問国でも公演を終えると、会場出口で出演メンバーと観客との握手の列が続き、車いすダンスは国・言葉を超えて感動を届けていることを実感した。海外公演について、中途障がいのメンバーは、「こうでないといけないと自分自身を苦しめていたものが、海外をみることにより、『新たな出会いと感動がある』『ありのままでいいのかな』と思うようになった」と語った。更に、訪問の都度、現地市長に広島市長のメッセージを届け、市民の立場で都市間の交流、国際親善と平和の使者の役割を果たしている。

表2 広島車いすダンスクラブの国際交流（中国・青島市障害者連合会、大連市障害者連合会よりの受入れ及び海外公演（6カ国・地域を11回訪問公演）

NO	訪 問 先	日時・人数	受 入 団 体 等
1	北米・ロスアンジェルス訪問公演	2004. 3.12～15 18名	高齢施設等、現地日本人会
2	北米・サンフランシスコ sacrament 訪問公演	2006. 2.29～ 3. 5 20名	高齢施設、教会等 現地ボランティア
3	中国・大連市訪問公演	2005. 8. 3～ 6 20名	大連市中山区市民大会 大連市障害者連合会が受入
④	中国・青島市障害者連合会受入	2006. 4.26～28 9名	青島市障害者連合会
⑤	中国・大連市障害者連合会受入	2006. 5.27～ 5.29 16人	大連市障害者連合会
6	台湾・台北市訪問公演	2007. 3.16～19 26名	台北市庁舎親子劇場 台北市日本人会等受入
7	中国・青島市訪問公演	2007.10.18～22 20名	青島市障害者センター体育館 青島市障害者連合会
8	中国・北京市訪問公演	2008.10. 8～18 22名	海淀劇場 北京市障害者連合会等
9	韓国・釜山市訪問公演	2009. 9.23～27 22名	釜山市役所ホール。島日韓親善協会、韓日親善協会の連携
10	韓国・大邱市訪問公演	2010.10. 7～11 21名	啓明大学、同上
11	オーストラリアウィロビー市	2012. 6.13～18 19名	特別支援学校等、日本人会
12	カナダ・モントリオール、トロント訪問・公演	2014. 9.18～24 21名	障がい者施設等、現地ボランティア
13	韓国・ソウル、釜山親善公演	2015.10.30～11. 3 15名	ソウル市役所ホール・釜山市役所ホール、日韓国交正常化50周年記念事業

※筆者整理作成 ※NO4、5は受入





2014年9月カナダでの公演での街頭のポスター

日本広島県障害者芸術文化振興会  
热烈祝贺北京奥运会和残奥会圆满成功!



向北京市残疾人朋友及广大市民问好!

日本広島県障害者芸術文化振興会和北京市残疾人联合会

联合演出

地点: 海淀剧院(海淀路黄庄 84 号)

时间: 2008 年 10 月 12 日下午 2:30 入场 (免费)

3:00 开演

欢迎广大朋友届时光临!

2008年10月北京公演のポスター

## 5 車いすダンスリハビリ効果について

くらはば障がいがあるすべての人を対象としている。実施にあたり褥瘡予防に留意し、車いすの転倒や転落防止に注意し、更にスタンディングパートナーは、車いすに足を轢かれないように安全にレッスンができるように注意が必要である。

仲井は「車いすダンスにおけるリハビリ効果について」広島県医師会スポーツ医学会(2002年2月)で発表。心身のリハビリ効果等の精神面への効果ありが97%、身体への効果ありが69%であり、新しいダンスを習得することによる脳の活性化、ストレス発散、癒し効果等の心身両面へのリハビリ効果が顕著に認められた。海外公演において、重度の障がいがある人の海外旅行の可能性を実証し、平素見られない気力と笑顔があり、くらはばの方々にとって、車いすダンスが楽しく、夢と希望を持ち、生きがいとなっている。

## 6 仲井・くらはばの表彰について

仲井は2005(平成17)年5月に看護師として初めて福祉分野の「広島車いすダンスくらはば」の活動により、「ひろしまナイチンゲール賞」(知事表彰)を受賞した。

2017(平成29)年2月8日にくらはばの活動により、「車いすダンスをすることを通して、障害がある人となない人との相互理解、障害者の社会参加の促進や市民の福祉意識の高揚に寄与」により、広島市より平成28年度「広島市民賞」を受賞した。

センターでくらはば、関係者で祝う会を開催し、仲井は「歩みの中で、実に多くの方々が惜しみなく支援して下さい、そのおかげで中断や解散をすることなく、活動を続けることができました」「私たちは感謝のこころを忘れず、今後も誠実に、より積極的に前を向いて歩んで参ります」と、感謝と今後の活動を力強く語った。



「広島車いすダンスくらぶ」広島市民賞を祝う会  
(2017.2.19：広島市心身障害者福祉センター)

## 7 仲井のこころを次世代に繋ぎ、バリアフリーの社会、共生社会の実現を！

仲井は1997（平成9）年に「車いすダンス研究会」（現広島車いすダンスくらぶ）を創設し、現在24年の歴史を有している。仲井はこのダンスについて「お互いの命をいとおしみ、尊重し、一生懸命を貫くこと」「ひたすらに、このダンスの魂を追い求めること、自分に与えられた能力を遺憾なく発揮すること、それがダンスの上手下手を超えて、最も美しく、人々を引き付けるダンスになる」「ダンスは誰かのためでなく自分のために踊るもの」とくらぶの皆さんに語っている。くらぶは「一人ひとりの魂の表現」の舞台をめざし、希望をもって生きていく道であつた。活動の実績が、一人ひとりに喜びと連帯、責任と互助の精神や自信を生んでいる。仲井のご家族は「振付を考え曲を編集し、夢と希望に満ちた公演を届けようと活動を重ね、精一杯人生を謳歌した」「苦労もお仲間と乗り越え、心から表現の場を楽しむ姿は眩しかった」と、仲井を偲ばれている。仲井の逝去後、くらぶは第二代会長として赤穴寿子氏が就任し、くらぶは2019（平成31）年1月に「ユネスコ活動奨励賞」を受賞した。またコロナ禍において福祉施設等へ訪問ができなくなっており、令和2年度の広島市の「新型コロナウイルス感染症の影響に対する地域福祉活動緊急支援事業」の補助により施設へ車いすダンス・高齢者の健康ダンスのDVD（45分）を広島市内80か所の福祉施設に贈呈された。仲井が独自に切り拓いた車いすダンスによるバリアフリーな社会の創造・共生社会の実現が次世代へと繋がれていくことを願うものである。

### 引用・参考文献

- 仲井 サカエ（2017）「希望をもって生きていくひとつの道」はげみ：日本肢体不自由児協会  
仲井 サカエ・畠山 京子（2008）アートセラピーの現場から～「広島車いすダンスくらぶ」活動の概要  
～（財）日本チャリティ協会アートセラピー懇話会実行委員会報告書  
畠山 京子（2007）「広島車いすダンスくらぶ2008年パラリンピック中国に舞う」月刊経済春秋2007.12  
畠山 京子（2019）「恩師抄人生の師」「いのち」「くらし」「いきがい」あるむ新たな福祉をきり拓かれた  
師との出会いから」月刊経済春秋2019.11  
広島車いすダンスくらぶ公式ホームページ <https://hwdc.jindofree.com> 最終閲覧日2021.2.20  
※本稿のすべての写真提供：広島車いすダンスくらぶ